

SHOW MEY シネマルーム

ジョン・カーター

2012年・アメリカ映画

配給/ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン・133分

2012(平成24)年3月23日鑑賞

大阪ステーションシティシネマ

Data

監督:アンドリュー・スタントン
原作:エドガー・ライス・バローズ
『火星のプリンセス』

出演:テイラー・キッチュ/リン・
コリンズ/ウィレム・デフォ
ー/ダリル・サバラ/プライ
アン・克蘭ストン/キーラ
ン・ハインズ/ジェームズ・
ピュアフォイ/ドミニク・ウ
エスト/マーク・ストロング
/サマンサ・モートン/トー
マス・ハイデン・チャーチ

👁👁 みどころ

ウォルト・ディズニー110周年記念の大作だが、原作は約100年前のSF小説『火星のプリンセス』。テーマは瞬間移動だ。南北戦争当時の騎兵隊大尉ジョン・カーターがひょんなことで火星に瞬間移動した後に展開する火星での戦争と、星を超えた恋の行方は？

ディズニーらしいといえばそうだが、ネタが古すぎるのでは？また、このクリチャーたちにあなたは親しみを有てる・・・？

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ディズニー生誕110周年記念作品のテーマの成否は？

ウォルト・ディズニーといえば『白雪姫』(37年)や『101匹わんちゃん』(61年)、そして『美女と野獣』(91年)『アラジン』(92年)など、夢とファンタジーの世界が特徴。そのディズニーが110周年記念作品として選んだテーマは、1912年にエドガー・ライス・バローズが書いた『火星のプリンセス』。私も小学生時代には『宇宙戦争』(H・G・ウェルズ著・1898年)などを読んで大いに興奮したものだが、今更瞬間移動のネタや火星人のキャラで成功するの？

たしかに、エドガー・ライス・バローズの原作は当時としてはインスピレーションに溢れていたのだろうが、2012年の今、南北戦争の元南軍騎兵隊大尉ジョン・カーター(テイラー・キッチュ)がアパッチと戦っている最中に火星に瞬間移動し、さまざまな冒険体験をするというアイデアはちょっと陳腐では？また、火星すなわち「惑星バルスーム」には、牙と4本の腕を持ち、2m80cm~3mもの身長を誇る砂漠の民サーク族の他、地球人に似た姿の赤色人で、青い旗を誇りとし、失って長い年月の経つ海洋を渴望しているヘリウム民、同じ赤色人だが、攻撃的な性質を象徴する赤い旗を掲げ、略奪を重

ねるゾダンガの民、さらに 宇宙で最も進化した存在で、バレスームの宗教では女神イサスの使徒とされるサーン族がいるらしいが、とにかく、ややこしい。さらに赤色人はともかく、緑色人の姿形をはじめ、登場してくるいくつかのクリーチャーには違和感がいっぱい。『スター・ウォーズ』が40年間にわたって大ヒットし、ジェームズ・キャメロン監督の『アバター』(09年)、『シネマルーム24』10頁参照)が3D作品として大成功したことを受けて、ディズニーはこのテーマを選んだのだろうか、さてその成否は？

火星上ではなぜ抗争を？その黒幕は？この恋は？

2012年3月現在最大の国際問題はイランの動静で、ホルムズ海峡封鎖の噂からガソリン価格がじわじわと上昇中。もし、イスラエルとイランとの間で戦争が起きると・・・？2010年にチュニジアに起きたジャスミン革命や2011年のエジプト革命は一応終結を迎えたが、アフリカや中東方面における国や民族間の争いは島国ニッポン人にはわかりにくい。それでも日々勉強すれば少しはそのポイントを掴むことができるが、惑星バレスーム上ではなぜヘリウム王国とゾダンガ王国が対立し戦争しているの？また、同じ惑星上でなぜサーク族のようなケッタイな姿でありながら人間と同等の知能を持った生命体がいるの？さらに、本作全般を通してキーマンとなるサーン族の教皇マタイ・シャン(マーク・ストロング)はなぜ一人だけ特殊な能力を持っているの？そこらあたりがサツパリわからないから、スクリーン上で次々と展開される一大スペクタクルも少し白け気味？

本作の紅一点はヘリウム王国の美しい王女デジャー・ソリス(リン・コリンズ)。スタイル抜群の彼女は科学者としてもすごい能力を持っているようだから、エジプトのクレオパトラを見習って、ゾダンガ王国の王子サブ・サン(ドミニク・ウェスト)と結婚すれば、たとえそれが政略結婚だとしても両国の友好関係が築けるのでは？そして、いくらカーターに命を救ってもらったからといって、異なる星を超えてあたかもクレオパトラとアントニウスのようにこの2人が恋に落ちるといったストーリーは、少しムリ筋では・・・。

大コケの心配が・・・

長く続いているハリウッドの超大作路線にも近時少し翳りが見えてきている。第84回アカデミー賞作品賞にノミネートされた作品は例年以上に見どころいっぱいだったが、その中で『アーティスト』(11年)が作品賞、監督賞など主要5部門を受賞したのも、ハリウッド映画が1つの転機を迎えていることの表れかも・・・。

本作の制作費がいくらなのかは知らないが、ディズニーの110周年記念作品として製作された以上、かなりの金額をかけていることはまちがいなし。ところが、その本作がアメリカではどうも大コケらしい。しかして、本作の試写を観たその日に某テレビ局から私の事務所に電話があり、「大作がコケる場合の共通点は何か？」という質問が出た。その取材の背景には本作のアメリカでの大コケがあることは明らかだが、マスコミからそんな取材対象になるということは、本作は日本でも大コケ・・・？そうなるかどうかの1つの試金石は、現在上映中の『STAR WARS エピソード1/ファントム・メナス 3D』(12年)がヒットするかどうかだと考えているが、私の予想では本作は日本でも大コ

ケ・・・？そんな悪い予感があたらなければいいのだが・・・。

2012(平成24)年3月26日記